

令和 6 年

第11回教育委員会会議録

（開会 令和 6 年10月25日）

（閉会 令和 6 年10月25日）

岐阜県可児市教育委員会

令和 6 年10月25日 午前 9 時00分開会
会場：市役所 5 階第 2 委員会室

出席委員

堀部好彦君（教育長）
梶田知靖君（教育委員）
長井知子君（教育委員）

伊藤小百合君（教育委員）
小栗照代君（教育委員）

説明のために出席した者

飯田晋司君（事務局長）
木村正男君（学校教育課長）
三宅愛彦君（学校教育課主任指導主事）
木村雄大君（教育総務課総務係長）
村井伴成君（教育研究所指導主事）

水野 修君（教育総務課長）
水野伸治君（学校給食センター所長）
石黒智子君（教育研究所主任指導主事）
古野 寿君（学校教育課指導主事）
只腰知子君（学校教育課学校支援係長）

出席委員会事務局職員

伊藤師啓君（教育総務課総務係）

日程及び審議結果

- 1 開 会
- 2 前回会議録の承認
- 3 教育長報告
- 4 教育委員報告
- 5 議 事
 - ①議案第30号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について（原案可決）
 - ②議案第31号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について（原案可決）
- 6 各課所管事項
- 7 委員からの提案協議事項
- 8 その他
- 9 閉 会

開会の宣告

- 教育長（堀部好彦君） おはようございます。

ただいまから令和 6 年第11回の教育委員会会議を開催させていただきます。

定足数につきましては、出席委員が過半数を満たしておりますので、この会議は成立するということでよろしく願いをします。

前回会議録の承認

- 教育長（堀部好彦君） 前回の会議録の承認について。
- 教育総務課長（水野 修君） 前回会議録に変更はございません。
- 教育長（堀部好彦君） 変更はなしということでよろしく願いします。

教育長報告

- 教育長（堀部好彦君） 続きまして、教育長報告でございます。

5 点お願いをします。

1 点目、長井委員におかれましては、せんだって教育委員再任ということで、市長からじきじきに辞令交付がなされました。市長いわく、引き続きよろしくということに加えて、保護者目線で可児市の教育について御示唆いただきたいというようなお話でございます。私も全く同感です。どうかよろしく願いをいたします。

2 点目でございますが、可児っ子の笑顔づくり事業の表彰式がございました。以前も紹介をさせていただいて、夏休みの作品で可児市を取り上げた子供たちの作品を、ぜひ今年は去年よりもさらにきちっとした形で表彰したいという市長部局の御提案がありまして、大変ありがたいと思っていたところですが、その表彰式が10月11日、市役所の市長公室で行われました。

スマイル輝き大賞、スマイル輝き賞、合わせて 6 名の児童とその保護者、また学校の関係者、先生方、校長先生が出席ということで、市長から表彰状が授与され、そして懇談があったわけですが、スマイル輝き大賞については、桜ヶ丘小学校の 6 年生の子が「さよりめしを有名にしたい」というような取組をまとめてくれたものです。これが大賞で、以下 5 名がスマイル輝き賞ということで、様々な可児市についての探求がまとめられたものを紹介してくれました。

その中には、これもお話をさせていただいたかと思うんですが、可児市の「笑顔の“もと”」って何だろうなんていうことを調べてくれた小学校 2 年生の子もいました。大変うれしく思っています。ここで保護者の方がいらっしゃったので、この 2 年生の子の「笑顔の“もと”」って何だろうということを調べてくれたということに引っかけて、「笑顔の“もと”」についての宣伝をその保護者にさせていただきました。つまり、この市長部局がやってくださっている可児っ子の笑顔づくり事業は、可児市について調べることを通して可児市に愛着を持つ、可児市を愛する心を育むことにつながるだろうと。こういったふるさと教育で育まれる資質、心情というのは、まさに未来の笑顔につながる「笑顔の“もと”」じゃないですかねという話を保護者の方々にさせていただいたら、皆さんうなずいて聞いてくださったことが大変うれしかったです。

いろんな場で「笑顔の“もと”」の理念を広めていきたいということで、常にそれを私は念頭に置いているわけですが、これは学校の教職員に広めることも簡単ではないと思っています。ましてや地域の方々や保護者の方々に広めるというのは、さらにハードルが高いと思いますので、機会を捉えていろんなところでお話をさせていただきたいと思っていますので、どうかその点も、教育委員の皆さんも考えていただけるとありがたいです。これが2点目です。

3点目、学校訪問。秋の学校訪問が続いております。可茂教育事務所の所長はじめ、人事に係る担当の方々が来年度の教職員の人事についての情報入手というような意図もあつての訪問でございます。5月、6月あたりの訪問で感じたことと同じことをまず私自身は感じております。心配な子供たちはいる一方で、学校に来ている子供たちは本当に落ち着いた学びの姿を見せてくれているなと思っています。先生や子供同士との人間関係、関係性も温かなものを感じています。またICT活用も、差はあるとは思いますが、興味のある教諭については大変先進的な学びにチャレンジしてくださっているなど、タブレットを使った追求という点で。大変うれしく思っています。

その中で、一番訪問で強く感じているのは、先生方お一人お一人が持ち味を生かして、そしてお互いに支え合って大変な学校経営を支えている。そして、校長の夢に向かってみんなが一緒になってやろうとしている、参画している、そんな同僚性を感じています。お互いに支え合うとか、持ち味を生かすとか、いろいろな先生、いろいろな力を持った先生がいっぱいいますよね。スーパーマンは、どの世界もそうだろうけれども、一握りだろうと思っています。いろいろな先生方がいらっしゃる中で、このような学校経営がなされているのは、今申し上げたような同僚性の高さが要因だろうと思っています。そんなことを、事務所長方もお話をしてくださっています。

そこで、私、今度の校長会で申し上げたいと思っていることは、なぜ同僚性が高いんですか、皆さんの学校は。なぜ支え合いが成立しているんですか。持ち味を生かした仕事が行なわれているんですか。校長に背中を向けて、または仲間同士でいがみ合っているようなことはみじんも感じないわけですが、むしろそうじゃない前向きな集団になっていることを感じているんですけれども、なぜそうなっているんだろう。それをきちっと見極めて、来年度の学校経営に生かしていただけるとよいと思っています。

マイナスの面、なぜこれができないのか、なぜ駄目なのかということも見詰めていなくちゃいけないと思います。その要因をね。そして、要因をクリアするための取組を考えてやっていくというのが経営の一つの方向だと思うんですが、一方で、いいことも何でいいんだろうかということを見詰めてほしいと思っています。

同様に、さらに同僚同士でどんな働きかけ合いがあるから、みんな頑張っているの。それも見詰めてくださいよ。特に今の若い先生方、それから今年大学を出たばかりで先生になった方々、いろいろな心配があるんだけど、何とかここまで頑張ってきているし、力をつけているという評価も聞いています。何でなんでしょう。どんな働きかけが先生方を育てているのでしょうか。これも見詰めてくださいねというお話をさせていただこうかと思っています。学校訪問で感じていることが3点目です。

4点目につきましては、最近見た大変うれしい新聞記事で、桜ヶ丘小学校6年生の記

事です。校内で代々受け継いできた踊り「桜ソーラン」を進化させようと、地元の専門家を講師に迎えて、練習に磨きをかけて運動会で成果を披露したということなんですけれども、これの何がうれしかったかというと、講師を迎えて子供たちをより力をつけよう、育てようというふうにして考えているのは、学校の校長がもちろん考えているんだけど、その大本は東可児中学校区で始まったコミュニティ・スクールの取組であるということです。このことも新聞で紹介をしてくださっています。

私、「笑顔の“もと”」の理念を広げることも難しいと言っているんだけど、コミュニティ・スクールの理念を広めることも難しいと思っています。コミュニティ・スクールの肝は何かといつも言っているのは、どんな子供に育てたいんですか、どんな「笑顔の“もと”」を育みたいんですか。これを学校、保護者、地域が共有して、それぞれができることを当事者意識を持って、学校のお手伝いではなくて私が子供を育てるんだという意識で、保護者、地域も含めて頑張る。これがコミュニティ・スクールの肝なんだというふうに話をしているんですが、まさに桜ヶ丘小学校の桜ソーランの取組はコミュニティ・スクールの趣旨を踏まえたものだなと思っています。

桜ヶ丘小学校の校長は、「笑顔の“もと”」を自己肯定感と言っています。子供たちに自分のいいところがあるよというこの思いをもっともっと膨らませたい。この思いが大変強くて、きっとこのコミュニティ・スクールでもそういったことを話をしていると思われますが、桜ソーランを講師を招いてさらに力をつけて、そしてそれをみんなの前で披露をして褒めてもらった。自己肯定感、これは非常に高まったんだろうなと思っています。

つまり、地域の方が、地域の講師が自己肯定感を高めるということで子供に貢献しているということなんです。お手伝いじゃないんです。まさに子供を育てている。これが、東可児中学校区で組織的に行われているということが大変うれしいと思っています。これが4点目です。

5点目、これも大変うれしいお話なんです、「広報かに」11月号、こんな表紙です。「山城に行こう！」ということが表紙を飾っているわけですが、めくりますと、2ページ、3ページは山城のことが紹介をされています。

さて、その次です。何があるでしょうか。

分かりますか。スマイリングルームのことを大きく紹介をしてくださっています。多様な学びの場という私たちのキーワードですね。不登校対策のキーワードとして上げている多様な学びの場をとということも大切にしながら、スマイリングルームのオープニングセレモニーを紹介し、教育支援センターの3つのルームということで、スマイリングルーム、ニコニコルーム、メタスマルーム、この3つの学びの場について詳しく紹介をしてくださっています。

こういった教育委員会の動きを「広報かに」で取り上げられていること、大変うれしく思います。加えて、本日の午後、教育福祉委員会との懇談会も引き続きあるわけですが、お疲れさまです。そこでも、不登校対策について取り上げたいという委員長のお話を伺っております。大変ありがたいと思っております。またそこでも教育委員の皆さんの不登校対策についての考え、思いを伝えていただけるとありがたいと思っております。

以上、私から５点でございました。

教育委員報告

○ 教育長（堀部好彦君） 続いて、教育委員報告でございます。

○ 教育委員（伊藤小百合君） おはようございます。よろしくお願いいたします。

前回の定例会議からの活動を報告させていただきます。

10月12日に春里小学校の運動会を見させていただきました。途中から伺ったんですけれども、天気がとてもよくて快晴で、本当に行っている間は雲一つなく、すがすがしいお天気で、子供たちも元気いっぱいに参加していました。

春里小学校は人数が少なめなので、団としては赤と白２つの団で、その中でまた２つに分けて、大体４つぐらいで対抗して実施する形だったんですけれども、どうしても赤か白か、優勝か準優勝かと結論的にはそういうふうになるんですけれども、その中で、やっぱり勝ったほうはもちろんすごく喜ぶ、負けたほうはちょっと残念だったという表情だったんですけれども、その後に児童委員長がお話したことがすごく印象に残っています。

○ 教育長（堀部好彦君） 児童委員長、子供ね。

○ 教育委員（伊藤小百合君） 児童委員長、はい、子供の。

勝っても負けても、取り組んできたことがすごくみんなが頑張ってきたから、それを喜ぼうというような趣旨のことを話していました。６年生でそういう言葉が出るんだなというのにすごく感心して、すごいなと思っていたんですけれども、その後にまた校長先生が、児童委員長が言った言葉に対してもお褒めの言葉を言っていたんです。校長先生がいつもよくお礼とかもされるんですけれども、今回は一段と子供に対して、練習をしてきたことに対してのありがとうだったりとか、準備をすることに対してのありがとう、当日の対してのありがとうとか、保護者に対してとかでも、感謝の言葉をすごく述べられていて、皆さんというか、子供だったりとか、保護者の前でこんなに感謝の気持ちを述べられるのってすごいなと、あとそれを見ている子供だったりとか、保護者がやっぱりどこか心に留めるものがあるんじゃないかということをすごく感じました。

次の週に、帷子小学校と南帷子小学校の運動会を見させていただきました。この日は天気がすごく怪しくて、何とか天気がもって運動会ができたんですけれども、最初に帷子小学校に行ってきました。帷子小学校は、天気が悪かったので、少しでも早く終われるようにと10分ぐらい早く始めていたんですけれども、児童もすごく頑張っていました。またちょっと校長先生の話で恐縮なんですけど、校長先生が一人一人というか、一列一列走る姿を見て、すごく大きな声で頑張れーという掛け声をかけてみえて、先生の性格もあると思うんですけど。

○ 教育長（堀部好彦君） 帷子小学校。

○ 教育委員（伊藤小百合君） 帷子小学校です。

もちろん子供たちも応援しているんですけど、来賓の席にいたので校長先生が近かったということもあるかもしれないですが、それをずっと休むことなく一列一列全部声をかけていて、先生の子供に対する思いというのがすごく伝わってきて、これまたすごい学ばせていただいたというか、すごく熱い思いを感じてきました。

次に、途中で南帷子小学校に移動しました。南帷子小学校は、またここも人数が少ない学校なので、ここも春里小学校と一緒に、赤を2団、白を2団に分けてやっていたんですけれども、物すごく元気にやっていました。ちょっとお話を聞いたんですけれども、心配な子がいるんだけれども、6年生は団体競技で棒引きと綱引きをやったんですけれども、それを、あまりそういったことも参加しない子だそうですけど、今回は自分の力を見せようじゃないですけど、自分が頑張れるというのに気づいたというか、先生たちもそう働きかけたんだと思うんですけれども、それにすごく自信を持って、すごく積極的に取り組んでいる姿を見ることができたという話がありました。少し笑い話なんですけれども、練習のときに、先生、すごく胸が痛い、胸が痛くてどうしようという話があったらしくて、ふだんあまり運動とかにも参加しないらしいので、息急き切ったみたいなの状態だったらしいんです。そういう息を切らす体験もできたということで、そういった子が少しずつ前に進んでいけるのがすごく先生たちもうれしかったといって、ちょっと喜ばしい話を聞くことができました。

運動会とは関係ないんですが、最近校区内で空き家が増えてきたので、一軒家を買われて引っ越ししてこられる方がみえるそうなんです。校区は南帷子小学校なんですけれども、春里小学校が家から近い場合などに、意見を言われるケースがあるとのことでした。今それをちょっと問題として取り扱っていて、どう対処していいか先生方も困っていて、業務外の仕事がちょっと増えつつありますというお話を聞いたので、ここでお話しさせていただきます。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

最後の話については、学校の教育行政の仕組みを御理解いただかなくてはいけないので、教育委員会の出番もあるのかなあということは聞いて思いましたけれども、ありがとうございます。

あと、3つの小学校の運動会につきまして、丁寧に見ていただいてありがとうございました。大変うれしくお伺いしました。それぞれの学校のよさを感じて、大変うれしいです。春里小学校については、大変児童の文化が高いなという、取り組む過程にこそ値打ちがあるんだという、こういった見詰めができるというのは生き方につながることでね。これは「笑顔の“もと”」にもつながることで、そういったリーダーが中学校に行って、さらに自己をきちっと見詰めて、よりよい生き方を目指すことにつながるんだろうなんてということも思いました。

あと、南帷子小学校の子供さんについても同様に、自分を見詰めて、目標を持っていく姿を感じました。ありがとうございます。

また、その3校の校長さんの運動会の際の姿も思い浮かびます。それぞれ情のある、子供たちのためにということで、一生懸命な校長ばかりですので、本当にいいお話をありがとうございました。

○ **教育委員（梶田知靖君）** おはようございます。

先日、ばら教室へお伺いさせていただいて、若原室長に施設内を案内していただきました。ちょうど授業が始まるころだったんですね。ばら教室のお子さんが、前で朝の挨拶をしていたんですけど、まだこちらへ来て1か月足らずで、誰々先生、元気ですかという挨拶をみんなそれぞれしていたんです。それにちょっとびっくりして、私の名前

も、指導員の方が多分教えたんだと思いますが、「梶田さん、元気ですか」と言われて、私も「元気です」とお答えをさせていただいたんですけど、本当に1か月足らずで、こんなに日本語がしゃべれる、吸収力もすごいんですけど、本当に指導員の方々や先生の方々の日々の努力がすばらしいと思いました。

朝の、日本でいうとアルファベットの英語を覚える歌なんかを、自分の子供の頃だと覚えています、あいうえおをリズムに乗せて覚えている授業を見せていただいて、小学校の子から中学生の子から本当に楽しそうに授業を受けていたので、とても驚きました。

施設内を見学させていただいて私が2点ほど気づいたことが、今、小・中学校さんではLED化を進めていると思うんですけど、ちょうど見せていただいた教室はまだちょっと新しい教室で、その教室はLEDの照明がついていたんですけど、ほかのところはまだ蛍光灯で、若原室長に、ここはLEDのお話って来ていますかと言ったら、そういう話は特にわからないという話だったので、ばら教室もLED化できるといいのかなという、ひょっとしたら既に計画していらっしゃるのかもしれませんが。

あと、私、国道21号線のほうから左折してばら教室へ行ったんですけど、あそこに特に看板がなくて、当然ばら教室へ送迎される保護者の方って、やっぱり外国籍の方が多いと思うんですね。なので、なかなか分かりづらいのかなというのと、若原室長も、なかなか説明するときに難しいようなことをおっしゃっていたので、何か看板があるといいのかなと思いました。

あとは、若原室長からは2点ほどお願いというか、指導員不足ということと、あと可児市にあるデマンドバスの運行状況の中で、市役所からはばら教室へ行くバスが出ているんだけど、結構可児市中で、広見とか瀬田のほうとかにも、やはり通っていращるお子さんがいるみたいで、そういったお子さんと一度市役所に送ってから、ばら教室にという流れがあるので、そういうデマンドバスの運行状況も見直していただけるといいなということをおっしゃっていました。

私からの報告は以上になります。

○ **教育長（堀部好彦君）** ばら教室の様子を見ていただいてありがとうございます。

今3点ほど、ばら教室の施設等についての御指摘があったんですが、LED照明、それから看板、バス運行についてなんですけれど、今後検討すべきは検討していくことになるかと思うんですが、現時点で、今言った3つのうちの何かコメントがあればと思うんですが、事務局いかがでしょうか。

○ **事務局長（飯田晋司君）** LED化については、私の記憶では来年度予定をして、予算要求をちょうど出したところかと思います。ちょっと確かなところは確認しないといけないんですけども、学校教育課の予算で出してはおります。

○ **教育長（堀部好彦君）** 市内のいろんな施設、LED化を進めるという方向で動いていますからね。時期がちょっとずれているということかと思います。ありがとうございます。

ばら教室の運営については、室長はじめ皆さんが、これも本当に子供のためということで、身を粉にしてやっていただいていることに感謝です。挨拶の仕方だとか、それからいろんな音楽の学びだとかということを通して室長が願ってみえるのは、日本で生

きていく覚悟を少しずつ高めていってほしいと。そういった覚悟を持って、学校で学んでほしいという思いも強く持っておられるようです。また機会がありましたら、そんな視点も踏まえて訪問していただけるとありがたいです。

○ **教育委員（小栗照代君）** おはようございます。

10月の上旬ですが、東明小学校に訪問する機会がありまして、校長先生から、来年度の1年生の人数がほぼ決まってきて1クラスの予定です、今回もというお話をお伺いしました。やはりだんだん少なくなってきましたので、なかなか人数が増えてこないですねとお話をしました。また、9月ずっと暑かったものですから、運動会の練習がなかなか外でできないということで、本当にできていないんですよということをおっしゃっていらっしやいました。

実際、10月19日に東明小学校の運動会を拝見させていただいたんですけれども、上旬お邪魔した以降にちょっと涼しくなってきたので、それから子供たちの元気な声も聞こえるように、運動会の練習の声も聞こえるようになってきたんですが、訪問させていただいたときは、練習期間短いんですけれども、子供たちが一生懸命駆けっこしたり、お遊戯したりということでしたので、ほっとしたのと同時に、子供たちも真剣に取り組んでいて、先生方もしっかりと御指導くださったんだなと思いました。

それから、新卒の先生、新任の先生もいらっしやって、子供たちを誘導したりとか、一緒にお遊戯を踊ったりと、大変ほほ笑ましく思いながらも、頑張ってるなと思いました。

それから、応援団なんですけれども、赤と白で2名の応援団長がいるんですが、今まで女の子の団長だったり、男の子の団長だったりということがあったんですけど、今回2人とも女の子で、しかも1人が外国籍の方でした。ですから、一緒になって応援して、みんなで力を合わせていこうって、その外国籍の女の子が主導してというか、中心で頑張っている姿を見て大変ほほ笑ましく思いました。

続けて、兼山小学校で教頭先生に、小規模特認のことでちょっとお伺いしたいことと、別件でもちょっとお話を聞きたいことがあったのでお電話させていただいたんですけれども、来年度の1年生は、今のところ決まっているのが1人ですというようなことをおっしゃっていました。せっかくこういった制度があるのに、なかなか来ていただけないところもあるし、子供たちもだんだん兼山も減ってきているので、もっともっと来ていただけるといいのになというお話をしていっぱいしました。

兼山在住の児童とも隔たりなく、変わりなく、みんな既存の小規模特認ということでほかの地域から来ている方も頑張ってるなと、大変仲よくやってくれているんですよというようにお話をしてくださいました。以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

東明小学校の運動会につきましては、またうれしいお話をいろいろありがとうございました。

応援を頑張っている外国籍の子の話なんだけど、以前、私、ばら教室の指導員をやってくださっていた外国籍の方、これは蘇南中学校で学び、東濃高校で学び、そしてばら教室の指導員ということで当時活躍しておられた方なんだけど、その方と懇談をしている中で、日本の学校で楽しかったこと、苦しかったこと、大変なことももちろんある

んだけど、言葉が通じないということで。日本の文化に触れてよかった、楽しかったことの一つの中に運動会、体育大会、そして応援、その中にもありました。一つのことに向かって、みんなで心を一つにして取り組むことのよさも、外国の方も感じるのかなということも思い出しました。

あと、熱中症対策も本当に大変で、先生方はいつやろうかということ、今年度の気候も踏まえて、来年度また悩ましいところなんだろうと思います。

もう一つ悩ましいのが、学級数の話ですよ。少子化で、来年度の学級減だよという学校も多々あるんですけども、その中で悩ましいのが、学級数が決まるのは、児童数が根拠ですよ。その子供の数が35というのが一つの区切りですよ。35人だと1クラス、36人だと2クラスになりますよね。1人の増減で学級数が変わるというのが非常に悩ましい。できるだけたくさん先生をいただきたいというのも、もちろん校長としてはあるんだけど、県や国としては、子供が1人出るのか入るのかで学級数が1つ増えるか減るかということは、1人の教諭の給与に関わることでしょう。1人の教諭の給与って、数百万円じゃないですか。数百万円が国と県で負担するわけですよ。前もお話したことがあるかもしれませんが、今の教員の給与は、国が3分の1、県が3分の2払っています。1人の増減で数百万の税金の使い道が変わってくるという状況を私たちは踏まえて、年度末、年度初めの子供の出と入りの確認というのは本当に大変です。学校からの報告を受けて、そして市でもその報告をまとめて事務所に報告するんですけども、これを間違えたら大変なことになるんですよ、間違えたら。または、十分に親との連携が取れていなくて、来るはずやったのに来なかったのなんていうことがあっては大変ということで、年度末、悩ましいところですね。ありがとうございました。

○ **教育委員（長井知子君）** おはようございます。よろしくお願いします。

先週の金曜日に、広見小学校の運動会に訪問してきました。去年は選手宣誓がほぼ女の子だったんですけども、今年は半々ぐらいで、特に男女の比率は決めていないと校長先生が言われていたので、その年に立候補した子になるそうですけど、女の子がやっている頼もしいなあと思いますし、男の子がやっているさすがだなあと思うので、いろいろな子がやれるといいなと思いました。

そのときに校長先生とお話をしていて、校長先生の苦悩だったり、思いだったりやっぱりあって、また話聞いてくださいとっておっしゃっていたので、また学校に行かないとなと思っているんですけど、何でもそうですけど、組織って、市があつて、県があつて、大きいものだとなつて国があつたりしますが、言っても難しいことはあると思うんですけども、そういった校長先生方の苦悩なんかをきちんとここでお伝えすることが、教育委員としての本当に仕事だよなと改めて思いました。

校長先生がとても感謝していらっしゃったことがあつて、まずはPTAの方にも運動会でお世話になって、自分たち教師だけではいろいろできなかったとおっしゃっていました。もう一つは、不登校、スマイリングルームに通っている子がいますよね。スマイリングルームの先生方が学校にも来てくださって、その後どうですかといった形で来てくれるんですと、すごく感謝していらっしゃいました。

あと、校長先生は校長室でカブトムシを飼っていて、今年生まれたのが雄ばかりだったそうで、スマイリングルームでもカブトムシ育てているんですか。また取りに伺い

ますとおっしゃっていました。あとスマイリングルーム、坂戸にできましたよね。あそこも行きたいですと、行ってもいいですかとおっしゃっていました。以上になります。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

孤独な校長のお相手をしていただいて、ありがとうございます。本当に校長って孤独だからね。本当にそうなんです、常に最終的な判断を求められる立場ですので、そのときに教育委員さんとして訪問されたときに、校長のいろいろな話を校長がしたくなるという関係をつくってくださっていることは大変ありがたいです。

私も中部中学校の校長の最後の年でしたよね。ちょうど4年前ということになりますけれども、初めて来てくださったことを今思い出しながらお聞きしたんですけれども、話しやすい方だなということをそのときにも思った覚えがあります。長井委員のことを。なかなか話してすぐに解決するわけではないんだけど、自分の悩みが教育委員さんが分かってくさっているなということは、きっとこれも教育委員会にも伝えられるなということは大きな支えになるのではないかと思います。本当にありがとうございます。

議事

○ **教育長（堀部好彦君）** それでは、議事に入りたいと思います。

○ **事務局長（飯田晋司君）** 議案書を御覧ください。

表紙の裏のページの目次のとおり、本日は議案が2件です。

議案第30号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について、議案第31号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について、以上2件についてよろしくお願いいたします。

○ **教育長（堀部好彦君）** 本日の議事の議案第30号 可児市教育委員会表彰規則に基づく被表彰者の決定について、議案第31号 要保護及び準要保護児童生徒の認定について及びその他の不登校児童生徒の状況について、児童生徒校内事故、問題行動、交通事故等の記録については、個人情報、プライバシーに関する情報のため、教育委員会会議規則第14条の規定により非公開とすることにしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

異議がないようですので、これらの件については非公開とします。

各課所管事項

○ **教育長（堀部好彦君）** それでは、先に各課所管事項です。

○ **事務局長（飯田晋司君）** 私からは1点、先ほど小栗委員も少し触れられましたが、今後の兼山小学校の在り方について少しお話をさせていただきます。

兼山小学校では、小規模特認校制度が始まって今年度で3年目になっております。ここまでの3年間ですけれども、毎年新たに制度を利用する児童が出てきておりまして、現在13名の制度利用の児童が兼山小学校に通学をしている状況です。それによって複式の回避が図られているという事実がございまして、確実に効果は上がっているんですけれども、児童数としてはやはり年々減少してきているということで、このままいきますと、令和7年度に2年生、3年生、この2学年において複式学級となる見込みとなって

おります。

さらにそのままいきますと、令和10年度には全ての学年が複式になってしまうということで、小規模特認校制度を続けていく予定ではありますので、それによって、入ってきてくれる子によって解消される学年ももちろんあるとは思うんですけども、全てが解消できるということはなかなか難しいのかなと見ております。

もともとの経緯を簡単にお話をさせていただきますと、教育委員会では、兼山小学校について、令和2年度の終わり頃に、令和4年度の複式学級発生の可能性を見越して保護者説明会を行っております。その中で、子供たちの学びのためにどうするのが一番いいのか、一緒に考えてくださいというお話をさせていただいて、保護者からも意見を出していただいております。当時の保護者の意見としましては、仮に複式学級になったとしても兼山小学校に通わせたいという意見が多くを占めた結果となりました。それらを踏まえて、市として子供たちのよりよい学びを検討した結果、令和4年度から小規模特認校制度を導入して、今日に至っているといった大まかな流れがございます。

現在、教育総務課では、令和7年度に複式学級が発生する見込みであることを踏まえて、現在通学する子の保護者や近い将来入学が見込まれる幼児の保護者にアンケートを実施するように準備をしております。また地元に対しても、学校運営協議会を通じて現状を説明し、アンケートの実施などについて御承知いただけるような準備をしているところでございます。

現状、恐らく令和7年度の複式学級は避けられないかと思っておりますけれども、それ以降どのようにしていくのか、まずは保護者の御意見を伺って、市としてアンケートの結果を参考に今後の方針を導き出していきたいと考えております。

教育委員の皆様には、担当課からまた今年度中、あまり遅くならない時期に機会を捉えてお話をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

○ **教育総務課長（水野 修君）** それでは、私からお願いします。

先ほど、冒頭で教育長のほうから長井委員が再任されたというようなお話をいただいておりますが、それに併せまして、教育長の職務代理者が伊藤委員になっております。御承知おきをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

2点目です。子供の見守りについてです。

これは以前にお話をさせていただきましたが、コカ・コーラ社、それからott社との連携事業の一環でございますが、令和6年度につきましては、帷子、南帷子、桜ヶ丘、兼山の各小学校区での設置という形になっております。こちらの基地局が全部設置が完了いたしました。順次、希望者に配付をしていきます。市内全域での見守りができるようになりましたので、御報告をさせていただきます。

それから3点目です。「笑顔の“もと”」奨励賞につきましてです。

お手元に資料があると思います。御覧ください。

後ほど教育委員会表彰の件については議題として上げさせていただいておりますが、「笑顔の“もと”」奨励賞につきましては選考がございません。あわせて、内規のほうも資料として配付させていただいておりますが、これは小学校の校長先生の推薦で表彰

させていただくという形で、かなり幅の広い内規にしておりますので、今年どういう形で出てくるのか楽しみにしていたところでございますが、現状、10校14件の「笑顔の“もと”」奨励賞の推薦が出てきておりますので、こちらにつきましては教育委員会表彰と同日に表彰をいたします。

推薦理由のほうを見ていただきますと、いろいろなことが出てきており、結構面白いなというところもありますので、またこれは後ほど見ていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

私のほうからは以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **学校教育課長（木村正男君）** よろしく願いいたします。

前回の9月19日以降の学校の動きをお伝えします。

まず小学校の運動会、教育委員の皆様からも話題を上げていただきましてありがとうございました。春先には土田小学校と兼山小学校が実施しておりますが、夏休み明けは9校が実施の計画で取り組んできました。天候の関係があって、予定を延期した学校もありましたけれども、無事どの学校も進んでいるところで、今週末に旭小学校が控えておりますが、それ以外の学校はほぼ無事に終えていると聞いております。開催までの練習、当日に大きなけがもないと聞いておりますので、ありがとうございます。

続きまして、各小学校では就学時健診がございまして、それも全て終わりました。来年度入学予定である児童やその保護者に各小学校に来ていただいて、諸検査を無事終えているところです。若干まだ終わり切っていないところもありますが、きちっと終わっていくように見届けたいと思っております。

それから、市内小・中学校において、10月11日金曜日に前期課程の終業式を無事終えて、10月15日からは後期の生活が始まっております。この9月、10月は行事がめじろ押しでして、修学旅行、宿泊研修、校外学習など出かけることが多くなっています。どの学校も綿密に事前の打合せを行って活動を進めておりますが、特に事故やけがなどの気になる報告は今のところ聞いておりませんので、御報告させていただきます。

最後です。可児川苑に開設したスマイリングルームのオープニングセレモニーも無事終わりました。参加していただいた教育委員の皆様、本当にありがとうございました。詳しくは、この後また説明があると思いますが、10月15日から正式な運営が始まっております。メタスマルーム、ニコニコルーム、スマイリングルーム、ともに子供たちの活動は進んでおりまして、行く子供たちの数も特段変わってもなく、むしろこれからまた増えていくのかなと、これはいい意味ですけれども、増えていくのかなと思っておりますので、子供たちのサポートを心強く進めていきたいと思っております。

ちょうど10月7日にはスマイリングルームで校長会も開催させていただきまして、その後、全学校の校長がスマイリングルームのことを見てきております。この後、教頭会も開催する予定でありますので、多くの方がそこを知ってもらっていくといいなというところでございます。以上です。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。
- **教育研究所主任指導主事（石黒智子君）** お願いします。

それでは、先ほどの学校教育課長からの報告がありましたが、可児川苑のスマイリン

グループについて少し御報告いたします。

10月15日の学校の後期の始業日に合わせ、開室しました。毎日20人近くの児童・生徒が通室しています。個室もあり、外遊びもでき、伸び伸びと活動ができています。大きな混乱もなく、よいスタートを切ることができました。また、従来の総合会館のほうですけれど、ニコニコルームとして、つながりサポーターと約束して利用する児童もいて、児童・生徒の実態に合わせた活用ができています。

それでは、別冊の資料を御覧ください。

行事は飛ばさせていただきますが、2ページの2番に「笑顔の学校」公表会について、前回も開催についてお知らせをいたしました。教育委員の皆様への会場の御案内が真ん中辺りに記載してあります。11月13日水曜日の14時から総合会館2階会議室で蘇南中学校を、4階第5会議室で兼山小学校を御視聴いただきます。お名前を割り振らせていただきました。御都合がよろしければ御参加いただきたいと思います。

続いて、2ページの下の部分です。

3番の学校教育活動アンケート、自己評価について記載しています。第3期可児市教育振興基本計画に沿って、アンケート項目の見直しをしました。変更点を下の部分にお示ししております。これまで保護者の方から答えにくいという御意見もありましたので、「あなたのお子さんの様子についてお聞かせください」と追加して、学校の教育活動がお子さんの姿に現れるよう、家庭も学校も地域も一体となって子供たちを育てていく意識を高めていきたいと考えております。

それにつきまして、4ページから9ページに、教育評価と評価項目について添付してありますので、後ほど御覧ください。なお、アンケートは全てウェブ形式で行う予定です。

続いて、3ページの4番です。

本日のことになりますが、中学校チャレンジ研修をぎふワールド・ローズガーデンで開催しています。過ごしやすい気候になりましたが、安全面での十分な配慮をして実施していただいています。

5番、ふるさと教育として、市長による授業の予定を記載しています。次回、内容についての御報告をさせていただきます。

最後になりますが、教育委員の皆様のお手元に「未来を生きるあなたのために」というリーフレットがようやく完成しましたので、お配りしております。多様な学びの場の拡充を図っていますので、お時間があるときに御覧いただければと思います。以上でございます。

- **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございました。
- **学校給食センター所長（水野伸治君）** おはようございます。

私のほうから2点報告をさせていただきます。

1つ目ですが、今週の火曜日、10月22日の献立で白みそ汁を提供する予定でしたが、具材の一つのネギの中に虫などが多く混入しましたので、16校全ての学校でみそ汁の提供を中止いたしました。保護者の方々に対しては、当日午後1時半頃にはすぐ一でおわびの文面を学校教育課のほうから送信していただいております。

経緯といたしましては、当日の朝、カットネギが納品された後に、下処理として水洗

いをしている段階でネギの中から虫や黒い汚れが出てきましたので、何度も水洗いを繰り返して取り除いて使用しましたが、結果的にまだ黒い細かい粒状のものが釜の中に浮いていましたので、完全には取り除けてはございませんでした。納品業者のほうにも見てもらいましたが、担当者としてもこんなにたくさん入っているのは初めて見たということでしたので、事態の全容が想定できないということで、安全のために、みそ汁については急遽提供を中止することにいたしました。

翌日、納品業者の報告によりますと、ネギの生産者のお話で、最近ヨトウムシという虫が大量に発生しているようで、その虫の混入の確率が高いことや薬が効かないという虫であること、またネギの加工業者においては、虫の混入に対する意識が甘かったという報告がございました。今後、加工に当たって対応できることはしっかり改善の上で対応していただくよう依頼したところでございます。

カットネギにつきましては、使用頻度も高く、可児市産、岐阜県産のネギを使用していますが、地場産の使用も大事ではございますが、安全を最優先して、十分状況を確認しながら対応してまいりますので、御心配をおかけして申し訳ございませんでした。

2つ目でございます。

現在、給食センターを含めて、給食調理等の業務委託が令和7年3月で契約満了となります。4月以降の業務の委託に関しまして、先月9月25日から次期事業者の募集を開始いたしました。この先、来週の28日に応募を締め切った後、11月15日に選考委員会を開催し、事業者を選んだのち、12月下旬には次期の契約の締結というスケジュールで進めさせていただいているところでございます。長井委員にはお忙しいところ大変申し訳ございませんが、選考委員として御出席いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

私のほうからは以上です。

○ **教育長（堀部好彦君）** ありがとうございます。

ただいま各課からのお話につきまして、御質問、御意見等ありますでしょうか。

〔挙手する者なし〕

では、私から2点お願いします。

今の学校給食センターのみそ汁の件でございます。

これは、保護者の皆様にはメールで申し訳ありませんというようなおわびの連絡にはなっているんですけども、私は一方で、これは可児市学校給食センターの安心・安全の給食提供に係る信頼を高めていることにつながるんじゃないかと思っています。毎日8,000食、9,000食の食事を提供するという中で、当日このメニューなしだと判断するのはなかなか難しいだろうな、大変だろうなと思います。その判断に至る経緯もお聞きすると、早い段階で異常を察知し、1回は何とか提供できないかということを試みているんですね。それでも駄目だと判断をして、ぎりぎりのところで連絡をしているということで、本当にこれも組織的な危機管理がされていて、ありがたいと思っています。私は、今回のことをそのように評価しております。これが1点目です。

2点目は、スマイリングルームの話がありましたが、旧スマイリングルーム（ニコニコルーム）の活用についても今少し触れておられたんですが、もう少し教えてください。

○ **教育研究所主任指導主事（石黒智子君）** 新しい施設に行きたい気持ちもある子も

いると思うんですけど、どうしても大勢のところと一緒に活動することが難しい場合は、友達のちょっと目の触れないようなところで、1対1で、静かな環境で勉強したり面談をしたりという活動を、約束をした時間に来ていただいております。

- 教育長（堀部好彦君） それが実際に活用されているということだね。
- 教育研究所主任指導主事（石黒智子君） はい。まだ計画とかが全く見えない状態ではあるんですけど、次はいついつの何時というところまでで。
- 教育長（堀部好彦君） 実際に子供が来ているということですか。
- 教育研究所主任指導主事（石黒智子君） はい。使っていただいています。
- 教育長（堀部好彦君） 何人来ているの。
- 教育研究所主任指導主事（石黒智子君） 今は2人ぐらいだと思うんですけど、毎週使いたいというような積極的な声が聞こえてきています。
- 教育長（堀部好彦君） その子は、前のスマイリングルームに来ていた子ですか。スマイリングルームに通っていた子で、自分は坂戸には行かないけれどもニコニコルームに行くんだよということを自己決定しているということなんだね。2人ともそうなんだね。
- 教育研究所指導主事（村井伴成君） はい、そのとおりです。自分で決めて、ニコニコルームに来ている子たちです。
- 教育長（堀部好彦君） 多様な学びの場が、こうやって活用されているということは本当にありがたいなと思いました。ありがとうございました。
ほか、よろしかったですか。

〔挙手する者なし〕

委員からの提案協議事項

- 教育長（堀部好彦君） 次に、教育委員からの提案協議事項についてを議題とします。よろしくお願いします。
どうですか。よろしいですか。

〔挙手する者なし〕

その他

- 教育長（堀部好彦君） それでは、次にその他に行きます。
次回の日程等です。
- 教育総務課長（水野 修君） 次回会議の日程についてですが、11月15日金曜日の午前9時からということでよろしくお願いします。場所は、市役所4階第3会議室でございます。よろしくお願いいたします。
その次の12月の日程でございますが、12月12日木曜日の午前9時からで調整をしております。よろしくお願いいたします。以上です。
- 教育長（堀部好彦君） それでは、これより会議を非公開といたします。

（以下非公開）

(以上非公開)

閉会の宣告

- **教育長（堀部好彦君）** それでは、これで全て終了ということで、教育委員会会議を終わらせていただきます。お疲れさまでした。ありがとうございました。

閉会 午前10時44分